＊＊＊＊＊＊あなたの町の情報誌＊＊＊＊＊＊

住まいル新聞

日本ステンレス工業株式会社
発行/日本ステンレス工業株式会社
〒409-0617 山梨県大月市猿橋町殿上630-1
電話=0554-22-2500
FAX=0554-22-5234
Vol.160 2013 1月号

地名の由来　大月市の地名　井上　豊

九九【ヨビワド】

深い谷を越えて、互いに安否を確かめ合うために呼び合うところから名付けられた。呼ぶ子鳥（カッコウ）にも通じよう。

呼ワ戸（新倉）

呼ワ戸（新倉）

一〇〇【フクジュ】【フクチ】

「甲斐国志」古跡の部に、福地郷の記載がある。その中に、福地郷ハ鳥沢辺左右ノ村落コレナリ。上鳥沢ノ南ニ一弧丘アリ。上ニ小祠ヲ置ク。福地権現ト称ス。蓋シ郷中鎮守ノ神祠ナルベシ。里人今七福神ノ祠トシ福寿権現ト唱ウ。とあり、福寿権現が祭られたことによる地名であることが分かる。

福寿・福地（鳥沢）

福寿（鳥沢）

付録一【長い地名】

大部分の地名は漢字の二語か三語である。もちろん短い地名は一語である。次の十三である。

原（笹子）

向、原（笹子）・堰、西、原（初狩）・林、佃（真木）・平（浅川）・佃、堀（藤崎）・塚、原（小沢）・岩、脇（小篠）・腰、峯（綱ノ上）

二語の地名は六一四で最多、三語の地名は四九五となっている。

次に、長い地名であるが、奈良子や殿上地区に多く見られる。

「日本地名辞典」では「日向菖蒲ニッ石向」（ひなたしょうぶふたついしむかい）（殿上）と記載されているが、「大月市地名宝典」によれば、「日向菖蒲」、「ニッ石」と近くではあるが別れているので、最長の地名ではないことが判明した。

最も長い地名は、平仮名、片仮名まじりで、「おくさんニカイ谷」（写真前号）、「おくさん穴あき」、「おくさん用沢入」（奈良子）、「サルワタリ道上」（宮谷）などである。

二【きれいな地名】

地名には様々な言葉と文字が使われている。中には情緒的で文学的な地名もある。

日向菖蒲（ひなたしょうぶ）（殿上）・日影紫（小沢）・西明月（にしめいげつ）（鳥沢）・花折（花咲）

花折（花咲）

現在地域で呼ばれ、表記されている地名と異なるものがある。それは「日本地名大辞典」の作成時点での誤りと思われる。

例えば、賑岡町の場合であるが、奥山の地名で、「下川」を「シモノカワ」としているがこれは「シタカワ」と呼ばれている。また畑倉地区の「新宮」は「ジングウ」と呼称されているのが「ニイミヤ」となっている。

こうした誤りは他にもありそうである。

神宮（畑倉）

四【カイトの文字と読み】

カイトについては、No・一八で取り上げているが、ここでは使われている文字とその読みについて調べてみよう。

（ア）海戸…六郎海戸（ろくろうかいど）（笹子）・西海戸（にしうみど）（浅川）・北海戸（きたかいと）（瀬戸）

（イ）垣外…大垣外（おおがきそと）（笹子）

（ウ）海道…法利海道（ほうりかいどう）（初狩）

（エ）外戸…西輪外戸（にしわかいと）（初狩）

（オ）飼戸…中飼戸（なかがいと）（宮谷）

中飼戸（宮谷）

（カ）外井戸…東外井戸（ひがしがいど）（鳥沢）

（キ）ケ井戸…芹ケ井戸（せりがいど）・大ケ井戸（おおがいど）・神ケ井戸（かみがいど）（鳥沢）

（ク）ガイト…外ガイト（初狩）

（ケ）かいど…せとかいど（駒宮）

カイトは、このように九種類に書き分けられているが、その読みはカイト、カイド、カイドウが主であるが、大垣外（笹子）と西海戸（浅川）は異色である。オオ（大）ガキ（垣）ソト（外）は、カイト（垣内）本来の意味をふまえたその外側を表していて面白い。ニシ（西）ウミド（海戸）は、地域の様子を知らない調査集計者による誤りとおもわれる。

なお表記ですべて片仮名になっている地区が林、割合多いのが浅利である。

五【上の文字の用法】

「上」の文字が、市内の地名でどのように用いられ読まれているか調べてみた。するとそこには地名の成り立ちを知る鍵がありそうである。地名はまず、その地形の形状や特色、存在する岩石や草木、はては異変や出来事など、あらゆる事物が対象となって成立した約束ごとである。口から耳へ数多く承認されて命名されたのが地名である。そこには地域住民の知恵と思考の長く厳しい過程があった。それがこの「上」の文字の使われ方の中に見ることができるのではなかろうか。

次ページに続く

地名の由来 歴史探訪

大月市の地名

井上　豊

次は、市内の地名に使用されている「上」の文字の読み方の類別である。

（ア）ウエ…　四三　上平（笹子）・上ノ原（初狩）　他

（イ）カミ…三一　上平（瀬戸）・上林（鳥沢）　他

（ウ）ジョウ…四　上山（猿橋）・献上地（大月）　他

（エ）アゲ…二　上見（藤崎）上山（塩瀬）

（オ）ワ…二　上平（真木）・上ノ原（真木）

（カ）ワゼ…一　池ノ上（真木）

（キ）ワミ…一　上向（浅川）

上向（浅川）

（ア）・（イ）・（ウ）・（エ）は、順当な使用頻度ともいえよう。（キ）を別として（オ）・（カ）は注目したい用語で、まだ地域に残っている古語の語幹といえる。ワゼ、ワデは屋号としても存在している。（キ）のワミは、また別の面白味を与えてくれる。七保の淺川地区は山を越えた向こう側が上野原の和見の集落である。昔から交流があったであろう。その和見寄りの地区が上向（和見向かい）という地名として承認されたのである。この和見を「上」の文字に当てた古代人の知恵とユーモアを知る思いがする地名である。

【おわりに】

私の住んでいる所は、賑岡町畑倉の日影という地区である。岩殿山から続く峰山と高之丸からセイメイ盤の尾根、そして葛野川をはさんだ七保町の権現山に囲まれた小さな台地である。フリヤド、竹ノ上、下原、尾尻の四つの字名が残されている。この中で、私の家は下原と尾尻が接する頂点の所にある。屋号は下野隠居である。すぐ上の家の大家から享保の頃隠居してわが家ははじまった。江戸時代の後半、今から二六〇年ほど前のことである。私で十〇代の系譜をたどることができる。狭い台地であるが、昔からの小さな地名が残されている。といっても、私くらいの年代までが知っている地名で、若者たちには記憶されずに消えていく運命をもった小さな地名である。それは私たちの先祖が呼び、なれ親しんできた地名である。例えば、「中西」、「源兵衛」、「下ん沢」、「峯」、「お諏訪様」などであるが、その中にガンジャアという沢がある。木苺の黄色い実が熟していた少年の頃の思い出がつまった沢である。

この沢については以前から気になっていて、心にとめていたが、村の「検地帳」を見るに及んで、蟹沢であると納得していた。ところが最近になって、私が書いたものの中で、ガンジャアは蟹沢であるというのに異論がでてきた。私よりずっと若い女性が、田舎の母から聞いたという話を思い出したといって手紙をくれた。それはこうだった。ガンジャアの「眼」で、ジャアは「蛇」というのだ。大きな眼を持った蛇がいてその尾が「尾尻」という地名として残ったのだという。そうした地名にまつわる物語を小さい時に聞いたというのである。

こうした地域の地名にまつわる話は貴重であり、ぜひ残しておきたいものである。

何とか一区切りをつけてみた。まだまだ興味のある地名がたくさんあるが、同時に解明できない地名も数多くある。そして現地調査をしてないので、誤りもあるかも知れない。次への捨て石になればと思うばかりである。そして、ここでは『日本地名大辞典』に載っている大月市の小字地名を取りあげたのであるが、地域にはこの小字の中により下位の地名が数多くあり、その収集と記録が手つかずに残されている。本来ならそちらの方が大事で優先されるべきであるが、順序としてこちらを選んだのである。つまり、小字の小字がどんどん失われ、忘れられていくのが現状である。今の小字が中字で、この中字の中に沢山の小字が存在しているが、これが失われていくのである。若者たちとの断絶がそれを早めているのである。

私の住んでいるところは畑倉である。岩殿山の裏側で、畑倉の地番はここから始まっている。その中の「日影」という地名が私と一番近くて親しい呼び名である。

この狭い一握りの地域にも、前にあげたように「中西」、「源兵衛」、「下ん沢」というような小さな字名が存在している。こうした身近な地名が次第に失われ、消えていこうとしているのである。若者たちとの断絶は、こうした小さな地名の存続を絶望的にしていることを真剣に考えるべきであると思う。それはまさに私たちの先祖がこの地で、呼び馴れ親しんできた地名である。大事に保存したいと思うのである。

平成二十一年秋

井上　豊

一年にわたって連載してきた「大月市の地名」は、当初から百選という心積りでしたので、この辺で区切りをつけたいと思います。

平成二十一年にまとめたものでしたが、日本ステンレス工業さんのご好意により、「住まいル新聞」に掲載されることになり、訂正したり、写真をそえることにしました。

現地の調査はかなり困難をきわめましたが、写真撮影には、色々な方々のご協力をいただきました。そして特に市郷土資料館の方々のご支援を得て完成できましたことをこの場をかりて感謝申し上げたいと思います。

これを機に、市内の地名に関心をもたれ、忘れられ、失われようとしている市内の地名を大事に守り、後世に伝えていきたいものと思います。

【参考文献】

・万葉集
・倭名類聚鈔
・甲斐国志
・幡倉村検地帳
・北都留郡誌
・地名の研究
・柳田国男全集
・日本地名大辞典
・地名語原辞典
・大菩薩連嶺
・甲斐地名考
佐藤　八郎
・大月市の地名
石井　深
・大月市の石造物Ⅱ
・国語大辞典
・大辞林
・漢語林